

—牧師室から—

聖書にはらい病のことが歌山記されている。当時は、医学が遅れていたためハンセン病だけでなく重い皮膚病も含んでいた。病を得た者は社会から完全に疎外され、残飯で命をつなぐ地獄の生活を強いられた。人恋しく町に出ても、衣で顔を覆い、人影を見れば「私は汚れています」と言いながら身を引くことが律法で定められていた。らい病が全身に進行した人がイエス・キリストを見て、ひれ伏し「主よ、御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と最大の謙遜を尽くしてお願いした。これは律法違反である。しかし、彼はそうせざるを得ないほどの苦悩の中で、イエス・キリストに望みを託した。この時、イエス・キリストは「手を差し伸べてその人に触れ」た。らい病者は嫌われ続けた醜い体に触れてくださるイエス・キリストの手にどれほどの慰めを得ただろうか。聖書は、このイエス・キリストに人間の病と痛みを負ってくださり、孤

独地獄から抜け出し、永遠の神との交わりを成就してくださる救いを伝えている。人は、美しいもの強いもの、豊かなものには手を差し伸べて関わりを求める。逆に、醜いもの、弱いもの、貧しいものには手はおろか、蔑みと差別の中に放置する。私は、らい病の体に手を触れられるイエス・キリストに捨てられた者に対する神の真実の愛を見る。イエス・キリストは「よろしい。清くなれ」と言われた。「I will, be clean. (私は意志する、清くなれ)」と宣言されると、らい病は直ちにいやされた。私はこの奇跡を信じている。その信仰は、誰でも、心に、体に又家庭に、人には言えない、触れられない、これさえなければという悩ましい問題を抱えている。イエス・キリストは、その問題に手を差し伸べ「生きよ」と意志し、いやして下さることを信じることである。聖書の奇跡は、今の私たちにも確実に起こっている。私は、イエス・キリストのみ手と清めの意志を信じている。

週 報

1990年12月2日 降誕前第4主日

待降節(アドベント)に入る

巻 11 36号

1990年度教会主題

「新会堂を献げる」

聖句 それは地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている。洪水になって川の水がその家に押し寄せたが、しっかり建ててあったので、揺り動かすことができなかった。

ルカによる福音書 6章48節

- 目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2. 新会堂を完成させていく。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13994

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄